

令和2年度第2回滋賀県環境審議会廃棄物部会会議概要

1. 開催日時

令和2年9月14日（月） 14：00～15：30

2. 開催場所

滋賀県大津合同庁舎7-D会議室

3. 出席委員

櫻井委員（代理：田代氏）、芝原委員、野瀬委員、橋本委員、樋口委員、溝口委員（代理：由井氏）南村委員、吉原委員、米村委員（代理：長畠氏）、和田委員（50音順）

4. 議事概要

議題(1)第五次滋賀県廃棄物処理計画（骨子案）について

- ・事務局から資料に基づき説明

（委員）

- ・県民総ぐるみの視点が必要ではないか。ごみの量を減らす、ポイ捨てをなくすなどの環境問題では、人間が課題的意識を持つことで結果がでている。これは、携わっている、あるいは、計画を作る段階では大きく議論されることであるが、その点をもう少し強化していただきたい。

具体的には、燃えるごみの量、粗大ごみの量が減らず行政費が増えている。また、コロナ禍において在宅が増え、排出量が増加している。また、プラスチックごみも川、琵琶湖、海に流れ、生物に影響を与えている。それらの、根本的な原因を第五次滋賀県廃棄物処理計画（以下、「計画」という。）に記載いただきたい。

食品ロスについて、家庭では生ごみ、産業界では食品ロスが多く排出されている。以前は、堆肥化しさらにリサイクルを進める取組を行っていたが、現在は薄れており、県民意識としての盛り上がりが欠けている。町においても家庭の生ごみ処理機の補助金を中止した。できるだけ、ごみを出さない、あるいは出したとしても、自らが地域活動・社会活動の中で削減していくということを計画の中に盛り込んでいただきたい。

（事務局）

- ・全県的なムーブメントという形で、県民総ぐるみというものを目指していく。策定中の、滋賀県食品ロス削減推進計画においても、県民総ぐるみという副題をもって進めていきたいと考えており、計画との調和をはかり、県民総ぐるみという観点をもって進めていく。

琵琶湖等へのごみへの流出については、プラスチックごみ以外のごみも対象になってくるので、そういったことも素案の段階で施策に盛り込んでいきたい。

リサイクルについては、リデュース・リユースの取組と同様にこれまで以上に進め食品ロス問題をはじめ、重点的な施策として位置付けていきたいと考えている。

(委員)

- ① 「総合的な対策の検討」の中で「マイクロプラスチックによる生態系・人体への影響」という文言があるが、人体への影響については、科学的な根拠はないと認識しているので、この表現は気になるところ。
- ② コロナ禍で、ある業者によると一般廃棄物の回収量が5～6%増えているという話も聞く。この状況はしばらく続くと思うので、そういったことも加味して施策の中に反映すべきではないか。

(事務局)

- ① 人体への影響については研究中ということは承知していたが、表現に問題があるので、関係課と協議し表現方法を検討していく。
- ② 市町へのアンケート調査において、ごみ搬入量の令和元年3月～7月と令和2年3月～7月との比較を調査した結果、3月と6月は増加しているが、その他は前年度並み。おそらく生活ごみは増加したが、事業系のごみは減少している。その部分も分析し将来予測等に反映できるようにしていく。

(委員)

- ・ SDGsの目標について、関連するものを全て記載すると視点がぼやけるという問題もあると思うが、フードバンクは、1番の「貧困をなくそう」や2番の「飢餓をゼロに」も該当するのではないか。また、11.6の「2030年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。」も該当するのではないか。

(事務局)

- ・ 食品ロス1番、2番は該当すると思われる。その他の施策も様々な目標が関連してくると思うが、どこまで関連する目標を記載するかについて今後検討していく。

(委員)

- ① 国の「環境基本計画」や「循環型社会形成推進基本計画」では、地域循環共生圏が前面に出ている。地方では取り扱いにくい面もあると思うが、三方よしの考え方はこれにあてはまると思う。また、基本方針の1つ目が、これに関連するところだと思うので、滋賀県らしさを出すという意味で、三方よしを基本方針に出してもよいのではないか。

また、地域循環共生圏＝三方よしの実現に向けた調査や取組を行うとよいのではないか。例えば、「施策の体系」に記載されている、環境関連産業の振興、バイオマスの利活用の推進などの位置づけをもう少し前に押し出してもよいのではないか。

- ② 廃棄物処理の過程での、情報技術の活用等の調査や支援の取組を進めていく必要があるのではないか。
- ③ CO2削減のことについても計画の中で触れているので、「近年の動向」に関連することを追加してもよいのではないか。
- ④ 基本方針の2つ目に「3Rやカーボンニュートラルであるバイオマスプラスチックの代替使用などを通じて、温室効果ガスの削減も含めた環境負荷を低減」と記載されているが、国のプラスチック資源循環戦略では「3R+Renewable」という言い方をしている。何か違いがあるのか。
- ⑤ 食品ロスの先進的な取組について表彰を行うとされているが、プラスチックの問題についても先進的な取組に対して表彰制度を設け、産業を応援するような形の取組をしてはどうか。

(事務局)

- ① いただいた意見を参考にさせていただく。
- ② 検討していく。
- ③ 温暖化の問題も廃棄物に関係してくるので、検討していく。
- ④ プラスチック資源循環戦略で謳われている「3R+Renewable」の意識を踏まえた上で、基本方針を作成していきたいと考えている。文章にする際には、そういったことがわかるように明確に記載し、国と同様にRenewableを進めていきたい。
- ⑤ 関西広域連合で、プラスチックの優良事例について表彰をしているところであり、これを個別の構成府県市ごとに実施するかどうかについては関西広域連合の経過等を踏まえながら考えていきたい。プラスチック全体については表彰だけではなく様々な施策があるので、そういった部分と併せて検討したい。

(委員)

- ① 廃棄物処理の主体となるのは県民だと思うので、分かりやすく伝えられるような計画にしていきたいと思います。例えば、基本方針の中に具体的なことを書いていただきたい。
現在、プラスチックごみ等の散乱に加えて、コロナの影響で、マスクのポイ捨てが目立つ。県民アンケート調査結果では、慎重にごみをだすようになったとの回答もあるが、マスクのポイ捨てが起きているのが現状である。第四次から第五次への計画に移る際に、何が重点なのか表に出していくことが重要だと思う。「散在性ごみ対策」で言うと、新たに増えてきているごみの問題もあるので、そういったことを計画に盛

り込んでいただきたい。「食品ロス」の関係でいうと、食品ロスの発生量等の実態把握というのは非常に有意義なことだと思うので、重点的に出す。というように、今までしてきたことを並べるのではなくメリハリを出していただきたい。

「施策の体系」の「イ.廃棄物の適正処理の推進」の中の、順番についても、個人的には、「一般廃棄物の適正処理」の後に「散在性ごみ対策」などが来るのではないかと思う。また、「生活排水の適正処理」が2番目にくることは疑問に思う。アンケート調査の結果も参考にして、何を重点的に対策を進めていきたいかということを明確にするとういのではないか。

また、「県民の役割」については、マナーの向上という文言が必要ではないか。

② 「定点観測による散在性ごみ個数」はどのような調査方法か。

③ 周知という点において、琵琶湖のごみ問題などの映像等をホームページ等で発信すると県民にわかりやすく周知できるのではないか。学生が海洋ごみ問題の映像を見た際に、なんとかしなければならぬ。というような声が挙がるので、映像を発信することが必要だと思う。

(事務局)

① 県民の方々にわかりやすい表現にすることや、先進事例などをコラムとして付け加えることで、イメージをもってもらいやすい計画を作成したい。

マスクのポイ捨てのような新しい問題については、時代背景に合った表現を工夫し、施策を検討していきたい。

「施策の体系」の順番については、見ていただく方にとってどのような印象を与えるかということを考えて順番や書き方を考えていきたいと思う。中身についても、どのように重点としてみせるかということも検討していく。

② 県内 38 ヶ所の調査範囲で、一旦すべてのごみを回収し、概ね1週間後に同地点において回収したごみ数の平均。

③ ネットでの配信については、関連部局とどのように発信していくか考えていきたい。計画においてもそういった取組ができるような位置付けを検討していきたい。

(委員)

① バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックは必ずしも環境に配慮したものではないのではないか。バイオ由来かつ生分解性が早いものであれば問題ないと思うが、そうでないものも多いので、「プラスチック代替製品の使用促進」の項目に並べて書くのはいかがなものかと思う。

② 「2R(リデュース、リユース)+リサイクルの推進」から「3Rの推進」に変更することであるが、市民や子供に向けて環境学習でごみの話をした際の実感としては、まだまだリサイクルが頭に強く印象付いており、リデュースやリユースの意識は

低いと感じているので、まだ2R+リサイクルという形で2Rをまず推進していくべきではないか。

リサイクルは推進するべきではあるが、リサイクル量を減らすために、リデュース、リユースを推進するべき。また、リサイクルを増やすと税金の支出が増えるという視点が抜けていると思うので、そこを意識すると2Rを優先させたほうがいいのではないか。

啓発が重点的な取組として挙げられているが、啓発で減らせるのは限定的だと思う。啓発だけでなく、禁止することや、経済的に有利になるような仕組みづくりをすることで合理的に行動することに繋がると思うので、そういう仕組みを作るということを計画に盛り込んでいただきたい。

(事務局)

① バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックを並行して記載することについては、配合率等の課題により必ずしも環境によいとは言えないという意見もあるが、紙、木材以外にも新しい技術が出てきており、今後、これらの技術が進歩していくことになると考えている。国の「プラスチック資源循環戦略」でも、バイオマスプラスチック、生分解性プラスチックなどの代替製品への転換を謳っているので、一度、表現方法について検討したい。

② 2Rはごみを出さない施策なので、2Rについてはこれまで以上に力を入れていきたいと考えている。たしかに、リサイクルの認識が強い中、税金を投入することが多くなるリサイクルを推進するよりは、2Rを推進した方が支出抑制につながり、良いと思うが、コロナ禍において、ワンウェイプラスチックの使用が感染予防の観点から増えていることや、バーゼル条約や国外への輸出規制が進む状況を考慮すると、これまでのリサイクルの状況を変えるリサイクルということも必要になってくると考えられる。現在考えている3Rの考え方とこれまでの2R+リサイクルの評価を行い、基本方針を考えていきたい。

また、ポストコロナを踏まえた基本方針がどうあるべきなのかという観点からも、検討していきたい。

(委員)

- ・ コロナ禍で、ワンウェイのプラスチックの使用が増えているとのことであるが、ワンウェイの方が、感染リスクが低いというのは正確ではないとのデータも出てきているので、その点も研究していただきたい。

(委員)

① 「三方よし」の精神に基づいた関係主体の役割を記載しているが、その役割を行動にするためにどのように動機づけを行うのかが必要。例えば記載されているような表彰制度、あるいは、義務化を行う、経済原理を導入するなど、記載されている一部についてでも行動するための動機付けを導入して強力に推進すれば目玉になるのではないか。

- ② 「滋賀県食品ロス削減推進計画」は国の「食品ロス削減推進法」に基づき策定されるものなので、フローに追加してもよいのではないかな。
- ③ 3 R の推進で、コンビニでのお箸等、いらいないものを断っていく。サービスとして提供しない。といったような買う側、売る側の行動をもう少し具体的に記載した方がよいのではないかな。
- ④ 散在性ごみ対策について、ごみは回収しないとさらなるごみを誘発してしまうので、一度お金をかけて、湖底のごみを取り除くという事業をしてもよいのではないかな。それをするにどれだけの費用がかかるかを県民に示すことで、啓発になるのではないかな。
- ⑤ 環境省が示したプラスチック一括回収について、市町アンケート調査結果を見ると、自治体の混乱が見られる。これを受けて、分別を、今後 5 年 10 年でどのようにしていくか考える必要がある。サーマルリサイクルとして位置付けた自治体も多いので、そこは尊重して経過を見ることも一つの手段だと思う。

(事務局)

- ・いただいた意見を参考にしていく。

以上